



社会環境の変化に対応し本市から転出されない施策を

創政会 青柳 慎

●市民サービスのさらなる向上について

Q 市スマート自治体推進指針において、どのような市役所を目指しているのか。

A 来庁しなくても24時間いつでも手続きできるような原則すべての手続きを電子化する市役所を目指している。

Q 「書かない市役所」のような新しいタイプの市役所窓口業務へどう取り組むか。

A 住民相談窓口のオンライン化や、スマートフォンでも手続きができる窓口環境の整備などに取り組んでいく。

Q 令和3年6月定例会で市民プールの設置に関する一般質問を行ったが、その後どのような検討をされたのか。

A 幅広い世代が自由に使える市民プールは魅力的な施設となるため、財源などの課題もあるが、基本構想の策定を前向きに進めていきたい。

●綾瀬市駅伝競走大会について

Q 前回の第44回大会は、開会式と表彰式は行わず通常通りの開催ではなかった。第45回大会は、参加者の記憶に残る安心安全な大会にして欲しいと思うが、開催の予定は。

A 参加者の安全を守るため、開催場所と走路の見直しを検討しており、式典は感染対策を図りつつ、実施する予定である。式典では、厚木基地との交流イベントも予定しており、参加者の記憶に残る大会にしたいと考えている。



PFOAなど有機フッ素化合物の危険性への認識は

日本共産党 松本 春男

●PFOS・PFOA有機フッ素化合物の危険性について

Q 県は有機フッ素化合物調査を平成19年から行い、26年には引地川の土壌と河川底質から高い数値が検出されているが、把握しているか。

A 県ホームページで公表されており、把握している。横須賀市や座間市は、独自に河川の水質調査を行うとのことだが、本市の対応は。

A 法令に基づき、国や県が行う仕組みであるため、独自に調査を行う考えはない。



旧保健医療センターに移転する児童相談所への考えは

創政会 武藤 俊宏

●旧保健医療センターの利活用について

Q 県知事が大和綾瀬地域児童相談所を本市に移転すると表明したが、身近に相談所が設置されることで、子どもへのさまざまな支援につながると思うが、市の考えは。

A 相談所は児童虐待の対応をはじめ、子どもに関わる業務が多くあり、必要な施設と考える。一刻も早く開設できるように、県に協力を行う。

Q 児童相談所が市内に移転するメリットは。

A 児童虐待の相談支援や事業が発生した場合、迅速な対応が期待できる。

●学校給食について

Q 学校給食の沿革は。また、米空軍のオスプレイは機体不備により地上待機の措置をとったが、厚木基地に飛来する機種と構造は同じか。

A 国からは機体構造と基本性能は同一と聞いている。

Q 専門職員を新たに配置する状況はないと考える。危険なオスプレイの飛行に反対をしないか。

A 専門職員を新たに配置する状況はないと考える。



今後の厳しい財政状況を予想し効率的な公金運用を

創政会 笠間 功治

●市の公金管理と運用について

Q 今後、税収減など厳しい財政状況が予想される中、基金残高推移の確認や債券運用を行うなど、これまで以上に効率的な公金運用を行うべきと考えるが、市の考えは。

A 令和4年度に基金の一部で地方債を購入しており、今後10年間は半年ごとに運用益が見込まれる。社会、経済情勢を見極め、公金の確実かつ効率的な運用を図っていく。

Q 基金の流動性を確保し、効率的な運用が図れるよう、各基金を一体で運用していくよう取り組む考えは。

A 各基金を一体で運用することが有効な手段と考えており、今後、基金所管課と調整を図っていく。

Q 現要綱に基づき、複数の基金を一体の資金として運用していたことがあるため、今後、運用を進める中で見直しの要否を判断していく。



部局を超えて課題に取り組むプロジェクトチームとは

創政会 比留川政彦

●行政課題に応じたプロジェクトチームの設置について

Q 総合計画2030に掲げる戦略プロジェクト実現に向け、行政課題に応じてプロジェクトチームを設置しているが、設置の意義や現状、職員への影響、今後の方針は。

A 特定課題の解決に向けて、部局の枠を超え、庁内で連携して施策展開を行うため設置しており、事業実施や予算化につなげた。参加職員が所属に戻り、課題意識を共有することにより、全職員で課

題認識ができる効果がある。今後も多様化する市民ニーズに対応し、庁内連携により事業を展開できるように、継続的にプロジェクトチームを設置し、取り組んでいく。

●公共下水道事業の効率的な経営について

Q 消化ガス発電事業の具体的な進捗状況は。

A 令和4年4月に基礎工事に着手し、6年4月からの消化及び発電施設の運転開始を目指す。

Q 汚泥の削減の見込み

A 新たに導入する消化槽は、見込み量として、年間4000トンの汚泥を減量できる予定である。また、20年間で約25億円の汚泥処分費が必要となるが、ガスの売却益から建設費などを差し引きして、約5億円の収益が見込める。

議会用語の三三知識

「本会議と委員会」

議会の会議には、大きく分けて本会議と委員会があります。本会議とは、議員全員で構成する会議のことをいい、年4回3月、6月、9月、12月に開催され、必要に応じて臨時会も開催されます。議会としての権限や能力は本会議に認められるもので、議会の議決、承認、同意などは、この本会議で行わなければならない法的な効力があります。

これに比べ委員会は、議会の内部組織として、議員の一部をもって構成する会議のことをいい、議会の運営を協議する議会運営委員会その他に綾瀬市には、3つの常任委員会と基地政策特別委員会があります。これらの委員会は、本会議での審議の予備的審査、調査機関として設置されるものです。



市公式マスコットキャラクター「あやびい」



市の木「やまもみじ」

